

今回の依頼は円弧長約 11m（外 R6900、中心角約 90° ）の 3 段板の階段で、段板は t25 タモ集成材、蹴
込板は t4 シナ合板で受け帆立材、円弧定規となる R 枠は t28 のラチ合板で製作します。

そこで、段板は㈱マルダイ様のタモ集成材 t25*4200*600 を使用し、円弧定規となる R 枠は t28 の安価で長尺なラージ合板 2000*1000 が最大寸法のため、最大弦長 2000 を基準に割り付けて、さらに R 枠のジョイント部ラップ材を用意して R 枠が出来ただけ正確に延長出来るように配慮しました。

確定図



段板、受け帆立て、R 枠の NC 加工

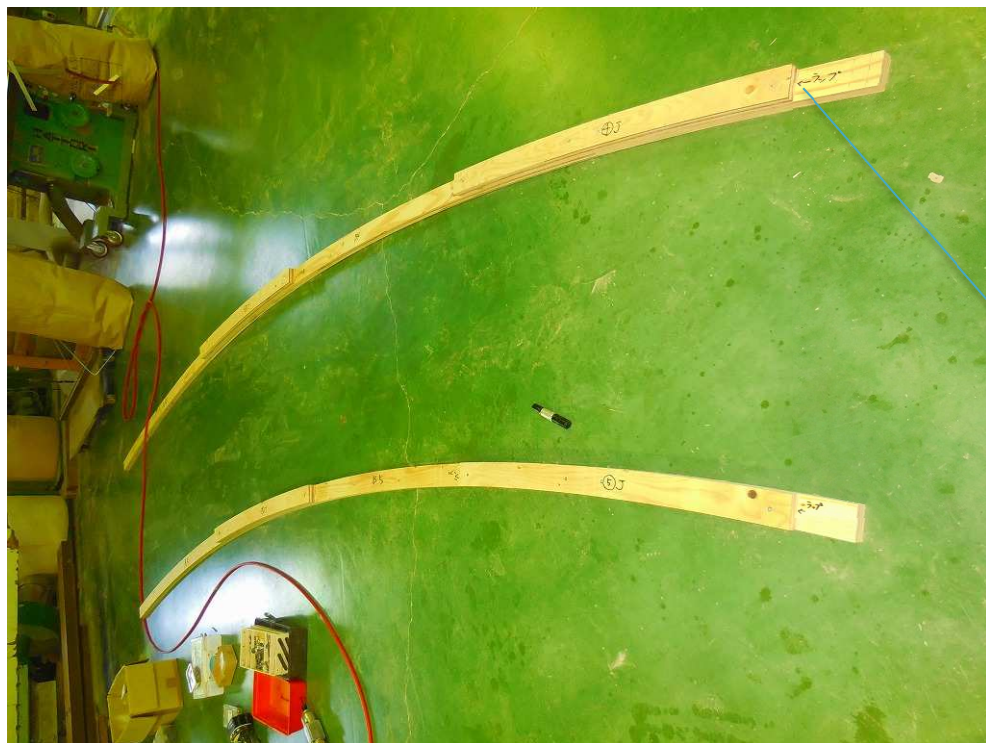


受けの各帆立て t28 ラーチ合板の位置を NC にて段板裏面にけがいています。



周長約 4.6m の仮組み、検証

A,B,C の各ブロック 1 セットずつ仮組みしました。



④R 外枠、④J (ジョイント用) を連結。

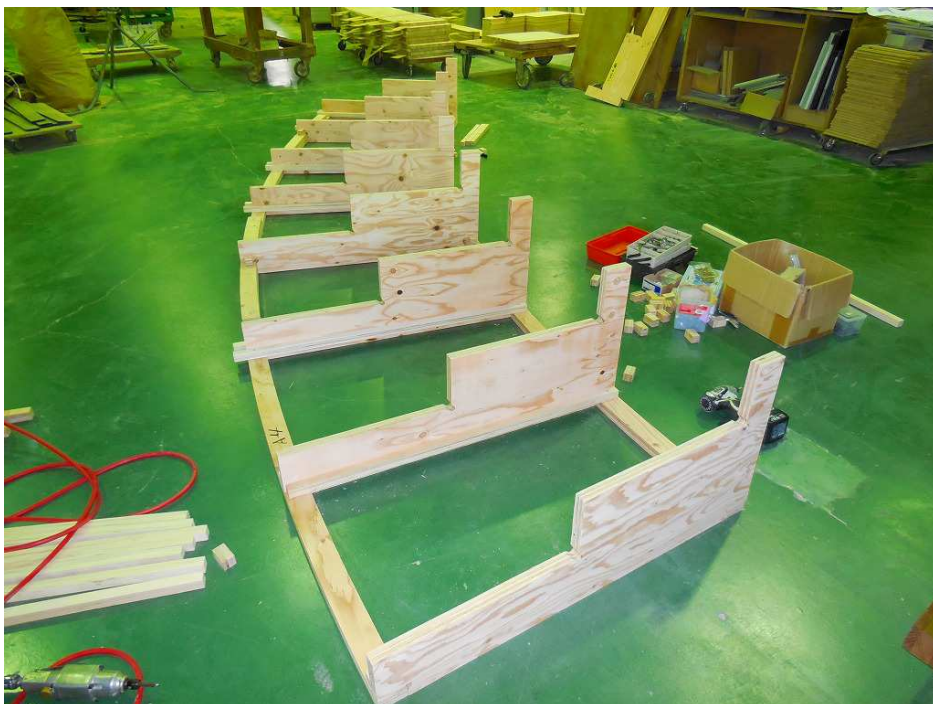
円弧定規の R 枠には受け帆立て t28 ラーチ合板位置、ジョイント材のラップ位置をけがいています。したがって、④、⑤の枠に受け帆立てを取り付けると同心円の円弧が成り立ちます。

⑤R 内枠、⑤J (ジョイント用) を連結。



④、⑤の円弧定規 R 枠の受け帆立てのマークに帆立て材をセットしていきます。

帆立て材は円の中心に向かってセットとなります。
(但し、両サイドの壁に接するものは異なる。)





蹴込板を仮固定しました。
これは仮組み用の t4
MDF 材です。



ステージ側からの段板
内部状況。



断面状況です。



A,B,C 各ブロックの
仮組みの完了です。

実際の仕上がりは 2 倍の円弧長のステージ階段になり、大きな扇形を構成致します。

(株)SNC 住設事業部 Da・Monde 鈴木
平成 27 年 10 月 26 日